理論懇ニュース　　１９９４年３号

発行 ： 理論天文学懇談会事務局　　(京都大学基礎物理学研究所 ・宇治内)
電話 :0774-31-7431　　ファックス :0774-33-6226
e-mail: yokoyama@yisun1.yukawa.kyoto-u.ac.jp
1994年9月9日

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

理論懇総会のお知らせ

北海道大学で開催される秋の天文学会年会期間中の、１０月１３日 (木) １２時より１３時まで、理論天文学懇談会の総会を開きます。会員の方は是非ご出席下さいますようご案内致します。会場は学会場の第１会議室を予定しています。

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

国立天文台委員推薦のための選挙

国立天文台より理論天文学懇談会に、運営協議員会台外委員と理論計算機共通専門委員の推薦依頼がありました。これまで同様に理論天文学懇談会では選挙によって候補者を決定し推薦を行います。投票規定は以下の通りとします。

1 運営協議員会台外委員は３名以下、理論計算機共通専門委員は２名以下の連記で、同封の投票用紙により郵送で投票を行う。同一人物の名前を複数連記した場合は１票と数える。ただし、運営協議員会台外委員と理論共通専門委員の両方に同じ名前がある場合は、これをそれぞれ独立に１票と数える。

2 候補者は国立天文台外に所属する助手以上の研究者に限られる。選挙権は理論天文学懇談会の会員に限るが、被選挙権は会員に限らない。理論天文学懇談会では一人の候補者を３回連続しては推薦しないことを確認しています。運営協議会台外委員に関しては、杉本大一郎氏が過去２回連続して本会からの推薦を受けていますので、今回同氏は同委員選挙に関しては被選挙権を持たないものと致します。一方、理論計算機専門委員に関しては、同様の理由で野本憲一氏は被選挙権を持たないものと致します。

3 運営協議員会台外委員と理論計算機共通専門委員の選挙は独立に集計し、得票の多い方から順位をつけ国立天文台に推薦する。ただし、運営協議員会台外委員に指名された者は理論共通専門委員としては推薦しない。これは同一の人物が国立天文台の委員を複数兼務しないようにするための処置で、これについては運営委員長が具体的に判断する。

4 投票は郵送とし、締切を1994年9月26日 (月) 必着とする。郵送先は、〒305 つくば市天王台1-1-1 筑波大学物理学系 梅村雅之あてとする。同封の返送用封筒を御利用下さい。

なお、運営協議会の役割は、国立天文台の教授を始めとする人事を決定し、さまざまな共同研究計画に関する事項や天文台の運営に関わる重要事項について台長の諮問応じることです。国立天文台の規定により、運営協議員会台外委員の決定は台長が分野 ・地域性等を考慮して

調整することがあります。必ずしも理論懇の推薦だけでは決まらないことをご承知おき下さい。

今回の選挙に当たって以下のような推薦が事務局に届いています。

＊＊

次期国立天文台運営協議会委員に、大阪大学理学部の池内 了氏を推薦したいと思います。池内氏は、その業績や経験からいっても運営協議会委員として非常にふさわしい方と考えます。よろしく、お願いいたします。

大阪大学理学部宇宙地球科学科
郷田 直輝

＊＊

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

第７回理論懇シンポジウム　『理論天文学の最前線』の御案内

表記研究会を
１９９４年１２月２０日　(火)～ １２月２２日　(木)
の日程で以下の要領で開催致します。

場所 ：国立天文台 講義室

形式 :口頭発表は全て招待講演者によるレビュー講演とします。その他の contribution は Poster 発表とします。Poster 発表の希望者は各々、下記の要領で吉岡[1]まで連絡して下さい。

旅費 :参加者への旅費の援助を行ないます。参加者は全員 10 月 30 日までに吉岡まで以下の項目に記入してお送り下さい。

氏名　：
所属　：
住所　：
E-mail アドレス　：
ポスター発表を希望する場合はそのタイトル　：

出席を予定している日 (に丸してください。): 12 月　20 日　・21 日　・22 日
旅費援助の希望の有無 ：交通費 (有　・無)　　宿泊費 (有　・無)

[1]住所 ：〒 135 東京都江東区越中島 2–1–6　東京商船大学物理教室　FAX: 03–5245–7339

集録原稿 ：集録の原稿〆切は１２月２０日このシンポジウム当日までと致します。それまでに原稿を茂山宛 e-mail でお送り下さい。可能な限り Postscript でお送り下さい。当日、floppy disk でも受け付けます。分量は

レビュー ；４ページ (A４)

ポスター ；２ページ (A４)

とします。形式は自由です。

プログラム ：

１２月２０日 (火)

時	題目	座長
１３：００~１５：００	MACHO と変光星	中村 (京大基研)
１５：３０~１７：００	楕円銀河の化学進化	有本 (東大理)

１２月２１日 (水)

時	題目	座長
１０：００~１２：００	超新星爆発のメカニズム	茂山 (東大理)
１３：００~１４：００	宇宙構造形成[2]	須藤 (東大理)
１４：００~１５：００	ポスターセッション	
１５：００~１６：００	並列計算機	大原 (新潟大理)
１６：００~１７：００	理論懇総会	
１８：００~	懇親会	

１２月２２日 (木)

時	題目	座長
１０：００~１２：００	銀河中心ブラックホールと AGN	戎崎 (東大教養)
１３：００~１４：３０	惑星系形成	中沢 (東工大応物)
１４：３０~１６：００	Quantum Cosmology	佐々木 (京大理)

理論懇談会シンポジウム組織委員
梶野敏貴 (国立天文台) kajino@ferio.mtk.nao.ac.jp
戎崎俊一 (東大教養) ebisu@chianti.c.u-tokyo.ac.jp
吉岡 諭 (東商大物理) yoshioka@phys.tosho-u.ac.jp
茂山俊和 (東大理) shigeyama@astron.s.u-tokyo.ac.jp

[2] パネルディスカッション

⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕⊙⊕

天文学会年会に関する理論天文学懇談会アンケート結果

以前にお願いしました年会に関する理論天文学懇談会アンケートの結果を報告致します。
回答者総数101名中

講演者の希望する発表形態（口頭・ポスター）をそのまま認めるべきである：65
学会全体の方針の下に希望発表形態が変更される可能性を認めるべきである：28
どちらとも言えない：8

という数字になりました。天文学会が行なったアンケート結果については学会の担当者から報告があると思いますのでそれに関する結果はここに記しませんが、理論懇メンバーは一番目の選択肢に対する希望がかなり高いようです（ただし、今回のアンケートには、研究機関によって理論懇メンバー以外の天文学会員の意見も含まれている場合もあります）。
また、学会講演の方法についての具体的な意見としてよせられたものをすべて列挙します。

- 年2回の年会をまったく同様の形式で行なう必要はないという、この間の年会総会での半田氏の意見に賛成です。具体的には、

  (1) 8、9月に大学で、できるだけパラレルセッションの数を減らした、short presentation + poster session（今回の形式に近いもの）の形式で行ない、多くの人の研究を知る、多くの人に自分の研究を知ってもらう機会とする。具体的な選択肢としては
  A）口頭発表のみ B）ポスターのみ C）口頭+ポスター
  の3つで、口頭発表時間はA,Cで同じにする（具体的に何分になるかは申し込みを受ける時点では概算とし、後で希望者の数によって変更される可能性があることを明らかにしておく。さらに、時間が確定したあとで$A \longrightarrow C$の変更はできれば認めるべき）。A,B,Cのカテゴリーは 申込者の希望どおりとし、学会側で勝手に変更しない。

  (2) 2、3月に大学で、分科会形式で行なう。通常2、3月に集中していた従来の各種研究会が年会の分科会として機能する。1週間以内の期間にいくつもの研究会が並行に行なわれ、発表形態、日数はそれぞれの分科会にまかせるが、できるだけひとり当たりの発表時間を多くとれるようにする。例えて言うなら、IAUのGeneral Assemblyのような形式。

- 年会の捕え方が人によりまちまちで、合意が得られない以上、発表形態を変更する可能性を認めてしまうのは、時期尚早のような気がします。といって、今のままで、どんどん発表時間が短くなるのは好ましくないですし、、、。

- 年会の時期を、大学がやすみの時期にずらしパラレルに5個程度のセッションを開くようにすれば、かなり問題を軽減できると思います。（問題の先送りかもしれませんが）

- ポスターセッションでも、かなり有意義な議論が出来ることを、春の年会で, 私は、感じました。学振などでの評価の問題はありますが、ポスターの発表の利点を認識して、そちらの数を増やすような、努力を学会はするべきではないでしょうか。

- 具体的な意見ではありませんが、学会の方針によって希望通りいかないことが起こり得ることを認めるのは、現在の状況ではしかたないと思います。それでも、招待講演を口頭発表とし、一般講演をポスターにする方法（アメリカ天文学会の6月の年会の

テーマ付きのセッションでとられている）は、私は好ましくないと思います。一般講演を、出来るなら希望通りの形態で発表できる方が良いと思います。（昨年までのように、圧倒的に口頭発表に集中せざるを得なかった理由［ポスターの地位が低くて、空間的にも時間的にも虐げられていた］もありますから。）

- 選択が行われる場合は、学位論文や若手には多少の優先権を与えて、座長によるセレクションが良いのではないかと思っています。
- 特別会員の激増（確かすでに1000名以上）を考慮すると、基本的にセッション数の増加、1講演時間の減少（5分程度まで）で対処する必要に迫られている。
- 口頭を学会のしかるべき組織の判断により、ポスターへ変更もやむを得ないことだと思う。この際、若手優先とか、ある分野優先とか学会の度毎に特 徴を出すと良い。
- 例えば、春・秋で口頭・ポスターを分野別に決めてしまう（春は・・・が口頭、他はポスター）ような方法もありうると思います。あるいはもう少し穏やかに、基本的に口頭発表を優先する分野を指定するということも考えられます。
- パラレルセッション数を増やす。
- 講演時間の多様化：5分、１０分、１５分など、複数提示しておいて選択できるようにする。研究の完成度の違う研究に一律同じ時間配分をする必要はないと思われる。
- 口頭発表が短くて充分な発表ができないという人のために、口頭発表と同時にポスター発表も認め、つっこんだ議論はそちらでやってもらうという案は結構良いと思います。
- 特に議論はありませんでしたが“学会員は均等に発表する権利がある”という意見が大勢を占めました。個人的には同様の意見ですが、須藤さんがおしゃるようにこのような問題を議論しても収集がつくはずがないと思うので、結局のところ多数決で決めるのが良いと思います。
- 従来の会期より春休みなど、講義と重ならない日程が望ましい。
- 広く研究を宣伝することと深く議論することを両立させ、かつ　発表の機会を公平にする観点から全て　「ショートプレゼンテーション＋ポスター」（本人の希望でどちらかのみも可）　とするのが良いと思います。　（もっとも、現時点ではメリットデメリットを考えるとなかなか良い方法が　浮かびません。何かideaを聞いたらまた考えるかもしれません。）
- パラレルセッションの数を増やしてもよいと思います。

さて、7月の実行委員会では必ずしもこの理論懇のアンケート結果を十分反映した結論になったとは思えませんが（当然ですが、天文学会が行なったアンケート結果をより重視したと言う意味）、このアンケートの結果もそれに至る議論の過程においては意味をもったものと理解しています。また実行委員会での結論は常にrigidというよりflexibleなもので、問題がでてくればいつでも改善する方針であるそうですから、今後も皆さんの希望を主張され続けることが重要だと思います。御協力を頂いた方々にこの場を借りて感謝させて頂きます。

須藤 靖（天文学会年会実行委員）